

提案型の議会めざして 議会基本条例の検討始まる

市議会の基本を定める議会基本条例検討委員会（議長の諮問機関）がスタートしました。冒頭の挨拶の中で山岸議長は、「地方分権時代にあつて提案型の議会にならないと市民の期待に応えられない。約1年間精力的に議論してほしい」とのべました。

検討委員会の委員長には創風クラブの内山米六議員、副委員長には政新の岩崎哲夫議員が選出されました。今回の検討委員会では、議会基本条例の検討方法について意見交換しました。

日本共産党議員団の橋爪議員は、「上越市議会には先進的でいいところと改善すべきところがある。これまでの取り組みでいいところを生かして上越市議会ならではの条例にしていきたい。まずはどんな議会にすべきかよく話し合つて大きな柱を決めていき、続いて細部に入つていったらどうか。途中、何回か、直接市民の声を聴くことも大事なことだ」と発言しました。他の委員からは、「その都度、会派に持ち帰つて議論していくのではなく、選出された委員間討議を中心にしてやってほしい」「上越市議会の独創力のある、これで上越市議会は大丈夫だと言われるものにしてほしい」などの発言がありました。

次回は今月27日午前10時からです。今後は月2回くらいのペースで検討していき、来年4月中の答申をめざします。

市議会主催議会報告会



市民プラザで行われた市議会報告会

3月定例議会の報告を各常任委員会ごとに、委員長が報告、その後に活発な質疑が交わされました。

議員や議会のあり方についても参加者から貴重な意見が出されました。

今検討されている会派規定に関連して、「直接選挙で選ばれた議員の発言を制限するのはおかしいこと、十分に発言を保障すべきだ」との意見が出されました。

これに対して議長は、「自治基本条例より後退することはありません。数の論理だけで制限していくことはない。議会基本条例を検討しており、議会や議員の活動のあり方は十分に保障される」と述べました。

開かれた議会、活発な議会をめざして行われている議会報告会ですが、参加者が少ないのが残念でした。当面は年2定例議会後4会場で行われます。

参加者から活発な質問

5月17日午後2時から市民プラザの第3会議室で、市議会主催の議会報告会が開かれました。市民の参加は約20人ほど、議員は30人の参加でした。県内の新発田市議会から、市議会議長と議会議務局長も参加され、市民とのやり取りを熱心にビデオカメラに収めたり、メモをとったり熱心に傍聴していただきました。

介護認定方法の変更 厚生労働省も見直しへ

介護認定方法がこの春から見直され、「状態が変わらないのに認定が軽度」といった問題が指摘されています。

3月議会でも平良木議員が、上越市内のモデル事業の例も示しながらこの問題を指摘し、市長の見解と対応策についてただしたほか、県議会でも日本共産党の竹島良子議員が「この変更でおよそ2割が今までよりも軽い認定となる」と指摘し、国に対して見直しを求めると質問しました。

国会では、日本共産党の小池晃議員

県知事宛に次の趣旨の通知を行っています。

『要介護認定および要支援認定方法の見直しは、平成21年4月1日から実施しているところ、見直し後の要介護認定などの方法については、一定期間検証を行うこととしている。そうした中、要介護認定などの方法の見直しに際して、利用者に引き続き安定的なサービスの提供を可能とする観点から、見直し後の要介護認定などの方法の検証機関に、要介護認定などの見直しに伴う経過的な措置の実施を市町村

議会で質問する平良木議員



にお願ひする。手順については：①要介護更新認定または要支援変更認定に際し、市町村は更新認定を行う被保険者に対して更新申請を行う以前に要介護状態区分等とすることを希望するか否かの意思を確認するものとする（以下略）。

5月16日・17日の2日間、市内で日本共産党上越地区議員団（上越市、妙高市、糸魚川市）の学習会が行われました。3月定例会の総括や6月定例会での課題について意見交換を行いました。今回は、糸魚川市議選で初当選した池田達夫議員も加わって大変有意義な学習交流会になりました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.183 2009年5月24日

連絡先	橋爪 法一	548-3628	(吉川区代石)
	樋口 良子	544-6802	(中門前3)
	上野 公悦	530-2203	(頸城区中柳町)
	平良木 哲也	525-9096	(上中田)



日本共産党上越地域議員団交流学習会

厚生労働省老健局長は、4月17日、各都道府